

秋 田 県 文 化 功 労 者 表 彰 要 綱

1 趣 旨

秋田県表彰規則（昭和43年6月1日秋田県規則第20号。以下「規則」という。）に基づいて、文芸、技芸、美術・工芸、学芸、教育、民生・社会福祉、農林業・漁業、産業及び保健衛生等の本県文化の向上発展に卓越した功績のある個人又は団体（以下「個人等」という。前年の文化功労者決定後に死亡した者を含む。）の事績をたたえるため表彰するものである。

2 表彰の名称

秋田県文化功労者表彰とする。

3 表彰の期日

- (1) 毎年11月3日前においてその日に最も近い県の休日以外の日とする。
- (2) (1)の規定にかかわらず、表彰を受けるべき者が死亡した者であるときその他特別の事情があるときで同項に規定する日により難いときは、知事が別に定める日とする。

4 表彰の場所

その都度定める。

5 秋田県文化功労候補者

規則第3条に該当する個人等として、本年、部局長、市町村長及び関係団体の長から推薦された個人等をもって秋田県文化功労候補者（以下「候補者」という。）とする。

したがって、前年までに推薦された候補者で表彰を受けなかった個人等については、改めて推薦がない限り選考の対象とはしない。

6 推薦書類等の提出

次により、各1部を提出するものとする。

- (1) 表彰候補者推薦書 （様式1号）
- (2) 功績調書 （様式2号）
- (3) 履歴書 （様式3号）
- (4) 刑罰等調書 （様式4号）
- (5) 戸籍抄本

（(4)及び(5)の書類は関係団体の長が推薦する場合は、添付の必要はないものと

する。)

- (6) 候補者が団体である場合は、候補者の定款等の規約、役員名簿及び候補者・推薦団体調書（様式５号）を添付すること。
- (7) 推薦者が関係団体の長の場合は、当該関係団体に係る定款等の規約、役員名簿及び候補者・推薦団体調書（様式５号）を添付すること。

7 欠格事項

推薦にあたって次の各号に該当する者は除外するものとする。

- (1) 現在刑事事件により係争中の者
- (2) 破産者で復権を得ない者
- (3) 既に県文化功労者表彰を受けている者
- (4) 過去に刑罰を受けた者で次の年限に達しない者
ただし、年限の半分以上を経過し、かつ、満７０歳を超えた者は除外しないことができるものとする。

区 分	自 然 犯 (刑事罰)	行 政 犯
懲役又は禁固(刑期満了後)	20年経過後	10年経過後
上の執行猶予恩赦(刑期満了後)	15 "	7 "
罰金刑完納後	10 "	5 "
" (執行猶予)	5 "	3 "

8 選考委員会

学識経験者のうちから若干名選考委員を委嘱し、同委員をもって秋田県文化功労者選考委員会（以下「委員会」という。）を構成する。

9 秋田県文化功労者の決定

- (1) 秋田県文化功労者（以下「文化功労者」という。）は若干名とする。
- (2) 委員会は候補者のうちから文化功労者を選考し、意見を付して知事に答申するものとする。
- (3) 知事は、委員会の答申を参考にして、文化功労者を決定するものとする。

10 表 彰

文化功労者には、知事からの表彰状、県からの楯及び金一封（個人１０万円、団体１０万円）を贈り、式を挙げてその功労を表彰する。

附 則

この要綱は、平成７年１０月４日から施行する。

この要綱は、平成14年7月1日から施行する。

この要綱は、平成20年7月10日から施行する。

この要綱は、第3項の改正規定は平成27年10月1日から、第6項及び第7項の改正規定は平成28年4月1日から施行する。

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

年 月 日

秋田県知事 あて

推薦者職氏名

表彰候補者の推薦について

次の者を秋田県表彰規則第 3 条の規定により表彰していただきたいので、
関係書類を添えて推薦します。

住 所（所在地）

氏 名（名称及び代表者の氏名）

担当者職氏名 連絡先

様式第2号 功 績 調 書

(A4判)

功 績 調 書			
住 所(所在地)			
ふりがな ----- 氏 名 (団体名称及び代表者職氏名)			
生年月日(設立年月日)		年 月 日生(設立)	
被推薦者の功績			
(1) 分 野	※別紙を参考に記入してください。	(2) 活動期間	年
(3) 功績に関する経歴			
※以下の事項を箇条書きで記入してください。 ・活動等を始めた(志した)きっかけ ・活動(研鑽)の経歴			
(4) 本県文化の向上発展への貢献の内容			
(5) 社会的な評価の状況			

別紙 秋田県文化功労者 分野別受章内容

分 野	過去の受章内容
文芸	歌道、現代詩、詩、川柳、短歌、俳句、和歌
技芸	かけ唄、華道、義太夫、郷土芸能、郷土民謡、現代舞踊、茶道、箏曲、俗曲、日本舞踊、能楽・謡曲、能楽、バレエ、番楽、邦楽、民俗芸能、民謡、謡曲
美術・工芸	漆工芸、桜皮細工、織物、御矢師、金属工芸、銀線細工、桜細工、漆芸、写真、商業美術、書道、鍛金、彫金、彫刻、彫塑、陶芸、樽岡焼、南画、日本画、美術・工芸、表装（美術品収集）、文化財の記録保存、木材工芸、木版画、杢目銅、木工芸、洋画
学芸	維新史、演劇、オペラ、音楽、音楽教育、音楽文化、神楽、合唱、郷土史、芸能史・民衆文化史、国文学和歌、自然科学、児童文学、スポーツ、体育、地域興し、地域文化の振興、地方文化・国際交流、地方文化の向上、地方文化の振興、調理技能、俳文学、文学史、文化財、文化財発掘調査、文化財保護、文化振興、文化団体の育成、文化の発展、文化保護、文筆活動、歴史、歴史学
教育	学校教育、教育の振興、高等教育、語学教育、コンクリート研究、産業教育・私学振興、私学教育、社会教育、生涯教育、スポーツ、青少年教育、生物学、製錬技術、地下資源、地質学、電気電子工学、特殊教育、農業教育、幼児教育
民生・社会福祉	社会福祉施設運営、社会福祉の向上、奨学金事業、消費生活協同組合振興、消防、青少年育成、出稼ぎ対策、農村生活改善、婦人地位向上、保護司、保護世帯更生、母子福祉、民生の安定向上、友愛学寮運営、幼児教育、老人福祉
農林業・漁業	育苗改良、稲作改良、稲多収穫、稲品種改良、鹿角リンゴの産業化、漁業の振興、女性農業者の地位向上、ダリアの普及、畜産導入、内水面漁業の振興、農協事業、農業、農業技術、農業気象、農業団体育成、農業の振興、農業の振興の育成、農業の発展、農村文化、農林業の振興、木材産業、酪農・養蜂・造林、緑化推進、林業の振興、りんご栽培改良
産業	秋田八丈、生駒塗、菓子、観光振興、機械金属工業地域産業の振興、企業振興、木地山こけし、桐タンス、金銀細工、金属機械工業、金属工業、建築文化、高山植物園、合板工業、産業経済、産業の振興、漆器工芸、漆器産業、漆器製造、漆器蒔絵技法、酒造業、醸造技術、食品産業、製材機械改良（帯鋸）、地域経済の振興、地域建設業、地域産業・観光、電子工業、中山人形、鋸目立、バス事業の振興・発展、ブナの用材化、曲木家具、木材産業、与八人形
保健衛生	アイバンク、医学教育、医療、医療・保健、学校保健体育、看護活動、郷土医療史、結核予防、健康管理、小児医学、精神衛生、成人病の予防・治療、地域医療、恙虫病治療、恙虫病の防除、脳血管疾患予防、農村医学、農村医療、へき地医療、保健医療、保健衛生、薬事衛生、理容業団体育成
地方自治	地域社会の発展、地方自治の振興
その他	自然保護

様式第3号 履 歴 書

(A4判)

履 歴 書		
本 籍		
郵便番号		
住 所(所在地)		
ふりがな 氏 名 (団体名称及び代表者職氏名)		
ふりがな 芸名等		性別 男・女
生年月日(設立年月日)	年 月 日生(設立)	(歳)
最終学歴		
功績に関する主な経歴(職歴等)		
年月日	経 歴	
賞 罰		
年月日	内 容 (表彰者等)	

(注) 年齢は表彰日現在で記入してください。

刑 罰 等 調 書

本 籍

住 所

氏 名

1 刑罰の有無

2 破産手続開始決定の有無

上記のとおり相違ありません。

年 月 日

市 町 村 長

(注) 関係団体の長が推薦する場合は、添付の必要はありません。

様式第 5 号 候補者・推薦団体調書

(A 4 判)

(候補者 ・ 推薦) 団体調書	
※ () 内のどちらかに○印をつけてください。	
ふりがな	
----- 団体名称及び代表者職氏名	
設立年	会員数 (※調書提出時現在)
年	名 (団体)
(1) 設立目的	
(2) 事業概要	
(3) 昨年度の主な活動内容	